

横浜市音楽研究会 研究部 器楽 部会記録					
日時	平成29年9月6日(水)				
部会名	研究部 器楽部会			主任	梅田 佳美
参加数	14名	司会	梅田 佳美	記録	齋藤 桂
研究内容	<p>研究部テーマ 子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方</p> <p>器楽部会テーマ 「子どもが楽曲の特徴や面白さに気付き、その楽曲への思いを大切に、豊かな表現をめざす器楽活動」</p> <p>研究仮説 「楽曲の特徴や面白さに気付き、指導法を工夫することで探究的、協働的な活動が生まれ、豊かな表現をめざす器楽活動になる」</p> <p>◎指導案構想研修 ～指導案づくりが楽しみになる器楽研修～ 共同研究者 本郷小学校 副校長 澁田 美穂 先生</p> <p>1 横浜市学習指導要領から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しっかり教え、しっかり引き出す」器楽活動とは、ということで、新学習指導要領の骨子を伝えていただいた。特に、「習得・活用・探求」の指導を進めることが、しっかり教え、しっかり引き出す指導であるということをお話していただいた。 ・毎時間の指導計画の中に「見通す」「ふり返り」の場面を設定したり、指導計画の中に、「主体的で・対話的で深い学び」を設定したりするような授業を目指していくことが大切。 <p>2 器楽合奏が楽しいと感じるためには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ学習主題を繰り返して指導していくこと。 ・音楽の学習では、「音を通して体験する」ことが必要。音は、心の表現である。子どもが心を閉じていると、どんなにノックしても響かないので、30人いたら児童の実態をそれぞれに把握できていることが大切である。 ・器楽合奏は、特に一年生からの積み重ねが大切である。音楽専科として、子どもたちを指導する場合、足りないところがあったら、重点をかけ、ふりかえって指導することが大切。1年生と4年生では、指導にかかる時間も深さも違うので、児童の実態を見極め、指導してから次に進むとよい。 <p>3 器楽分野の学習主題を考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達を思い浮かべながら、器楽活動分野での目指す姿を考える。 ・低学年、中学年、高学年での主題を比べ、6年生の学習で何を学ぶのかを考える時、5年生の同じ主題ではどうだったのか、これまでの経験はどうか、など、子どもの器楽学習の経験を考えなくては、指導計画は立てられない。 <p>4 指導計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画を考える時、まず、子どもの様子をどのように把握していくのだろうか。 ・全何時間か、グループか全体か、主題はどれでやるのか、など、たくさんあるが、器楽活動の学習を通して、何を育成するのかを軸に考えること。合奏を仕上げるとか、この時間で仕上がるかという質問を受けることがあるが、そういう視点で考えるのではなく、この曲を通して〇〇をねらうという視点が必要。 ・その次に、楽器編成、使用可能楽器、場の設定、児童の能力などを考えていく。 <p>◎器楽合奏「風を切って」指導計画 4時間 学習の主題「全体の響きを聴いて演奏しよう」 「曲想を生かした表現を工夫して演奏しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりがめあてをもつために導入の工夫「曲に対する憧れ」が大切。そのために、教師自身が、この曲の魅力をしっかりと捉え、どんな曲の出会わせ方をするのかを考えることが大事。歌詞から迫るか、国語との関連で、植村さんの曲をやるよ、と伝えておく導入もある。 ・CDや範奏を選び、先生が手本を示す、子どもから手本を出す、前学年の演奏を聴かせるなど、方法はいくらかもある。また、ピアノ伴奏で表現の工夫をして盛り上げることもできる。 ・子ども達は、みんな器楽合奏が大好き。子どもを深く理解して、子どもの気持ちに寄り添いながら、より豊かな器楽合奏の表現を目指そう。 				

